資料２

第１回　羽田空港発着枠の配分基準検討懇談会
議事概要

１．開催日時
平成２０年１２月１８日（木）１０：００～１２：００

２．場　　所
中央合同庁舎２号館低層棟第３ＡＢ会議室

３．出 席 者
＜委員＞（５０音順、敬称略）
佐藤友美子、谷本正憲、田村亨、舩山龍二、村上英樹、森脇勝、山内弘隆
＜オブザーバー＞
井手隆司（ＳＫＹ）、伊東正孝（ＳＮＡ）、岡田晃（ＡＮＡ）、小林茂（ＡＤＯ）、佐藤学（ＪＡＬ）、堀高明（ＳＦＪ）
＜国土交通省＞
前田航空局長　他

４．主な議事
○羽田空港発着枠の現状と検討課題

５．議事経過
○事務局より資料に基づいて説明を行った後、意見交換がなされた。

＜主要な意見の概要＞

○これまで地方の増便要望は羽田の容量制約により受け入れられなかったことから、都市と地方の交流人口の拡大のために羽田の増枠を活かすべき。また、市場原理だけでは十分でなく、全体の航空ネットワークをどう維持していくのかという視点が大事。エアラインだけに任せるのではなく、地域が空港を地域活性化の拠点として位置づけ、知恵を出していかないといけない。

○地域の活性化という観点から、小型化・多頻度化によるサービス向上について考えるべき。また、羽田再拡張で増加する国内線の発着枠全体に通じる考え方についても頭出しをしておく必要がある。

○発着枠の配分は、事業者サイド、利用者サイド、国サイド、あらゆるサイドから総合的に判断されるべき課題である。

○シェアの小さな会社のシェアを拡大させると、旅客数も増加するとのデータがある。また、観光路線ではビジネス路線のように需要が安定していないため、定期便を運航

することにリスクがあることから、チャーター便の活用も考えてほしい。

○新規航空会社にとって羽田の発着枠は事業基盤であるという観点から、発着枠の配分を考えて欲しい。

○発着枠の配分は、今後の日本の航空の姿がどうあるべきかという議論にほかならない。

○評価基準等、これまでの懇談会での議論の積み重ねは大事にすべき。また、空港間の競争は重要だが、幹線と地方路線が同じ競争条件で競争するのは無理。その点、３便ルールは適切なルールと考えている。

○新規航空会社による競争促進と地域の活性化という２つの課題は、やり方によっては整合性を持って実現できるのではないか。また、航空会社の経営が厳しい中、羽田の増枠を経営にどう活かしていくかも重要な視点。